



トレリス内科クリニック

医師 戸枝 弘之

# 胃がんを予防しよう 胃がんでいのちを 落とさないために

## がん検診について

2022年厚生労働省から発表された日本男性の平均寿命は81・47歳、女性の平均寿命は87・57歳で、40年前に比べて男性は約7年、女性は約9年平均寿命が延びています。ご高齢、ご長寿になられると「言うことは色々なご病気になることも考えていなければなりません。特にがんは、高齢化に伴い2人に1人ががんになり、4人に1人ががんで亡くなる時代です。がんは早期に見つかれば、十分治癒の期待できる疾患です。そのために病気の早期発見に向けた検診が重要です。」

各自治体では肺がん検診、胃がん検診、大腸がん検診、子宮がん検診、乳がん検診、前立腺がん検診など毎年がん検診を実施しています。皆さんは、がん検診、受けていますか。

## 胃がん検診の目的

今回は、胃がんと胃がん検診についてお話ししたいと思います。胃がんはアジアに多く、日本全国で1年間に胃がんと診断される方は約12万人で、全がんの3位、また1年間に胃がんで亡くなる方は約4万2千人で、全がんの3位です。胃がんと診断された方を年齢別に調べてみると、40歳を境に増加していることがわかります(図1)※1。

図1 年齢別胃がん罹患者数(2019年)

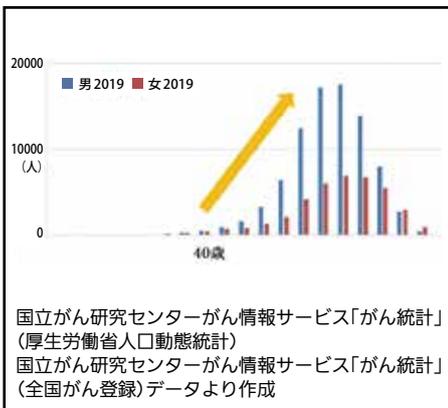
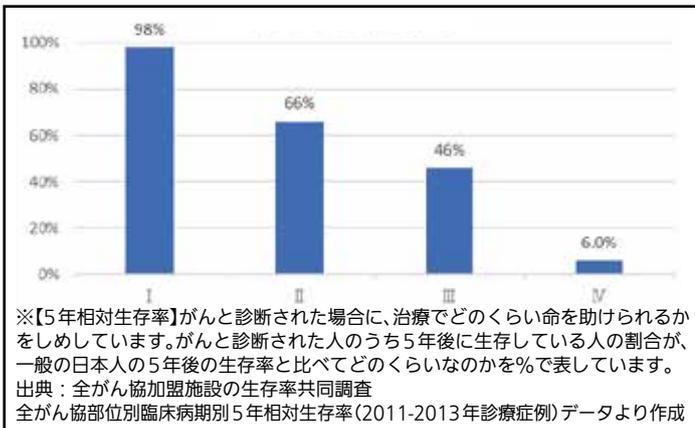


図2 胃がん5年相対生存率



## 胃がんの予防(胃がんとピロリ菌)

ピロリ菌感染者の胃がんリスクが高いことが報告されています。ピロリ菌感染者と非感染者を10年間観察したところ、ピロリ菌に感染した人では2・9%に胃がんが認められましたが、ピロリ菌に感染していない人には1例も胃がんが認められませんでした※3。

また、早期胃がん治療後にピロリ菌の除菌(ピロリ菌の退治)を行うと、再発胃がんの発生を1/3に抑えることができる可能性が報告されています※4。

## 胃がん検診

胃がん検診には、胃X線検診(バリウム検査)が行われてきましたが、近年では胃内視鏡検査(胃カメラ)を導入する自治体も増えています。

バリウムの影を見ている胃X線検査に対し、内視鏡検査は胃がんの発生する胃粘膜を直接観察することができるため、萎縮性胃炎(胃がんの発生しやすい粘膜の変化)の診断や早期胃がんの発見には有用であり、その評価が進んでいます。



胃がんリスク検診

血液検査で胃粘膜の萎縮とピロリ菌感染の有無を組み合わせて、胃がんのリスクを診断する胃がんリスク検診を導入する自治体も増えています。

胃がんと診断される方は依然として多く、40歳を超えて増えてくること分かっていきます。早期胃がんの症状はほとんどありませんが、早期に見つかればほとんどの方が治療しています。症状がなくても胃がん検診を受ける意味がここにあるのです。

胃がんで命を落とさないために

胃がんで命を落とさないために、40歳を超えたら胃がん検診を受けてください。そして、一度ご自身の胃がんリスクを確かめるために、胃がんリスク検診を受けてください(一部の方は対象外)。ピロリ菌に感染していたらピロリ菌の除菌治療(ピロリ菌の退治)を受け、胃がんのリスクを減らしてください。ピロリ菌感染、胃粘膜の萎縮があれば、定期的に内視鏡検査(胃カメラ)を受けてください。

清川村の胃がん検診

清川村の胃がん検診は集団検診で、胃X線検診(バリウム検査)と胃がんリスク検診を行っています。令和5年度より、条件付きで胃がん検診として内視鏡検査(胃カメラ)が受けられるようになる予定です。

清川村の胃がん検診受診率はコロナ禍で令和2年度は7・2%に低下しましたが、コロナ禍前後は受診率10%前後で推移しています。受診率を上げ、清川村から胃がんで亡くなる方をなくしていきたいでしょう。

参考文献

- ※1 国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(厚生労働省人口動態統計、国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(全国がん登録))
- ※2 全がん協部位別臨床病期別5年相対生存率(2011-2013年診断症例)
- ※3 Uemura N, et al: Helicobacter pylori infection and the development of gastric cancer. N Engl J Med. 2001; 345: 784-9.
- ※4 Fukase K, et al: Effect of eradication of Helicobacter pylori on incidence of metachronous gastric carcinoma after endoscopic resection of early gastric cancer: an open-label, randomised controlled trial. Lancet. 2008 Aug 2; 372: 392-397.

問 保健福祉課保健予防係

☎ (2888) 3300-1

診療所だより



前煤ヶ谷診療所 猪野医師

転任のあいさつ

皆さん、こんにちは。

挨拶が遅くなりましたが、今月から煤ヶ谷診療所の担当医師が変更となります。

月曜日は赤松遼一医師(今年度より)、火曜日から土曜日は渡邊南穂医師(前年度火曜日担当)となります。

私が赴任してからあっという間に1年が経ってしまいました。日々の診察や発熱外来、乳幼児健診などをさせていただきました。

1年を通して感じたことは、清川村の皆さんはご年齢の割にとっても元気な方が多いということです。

血圧手帳をととても丁寧に書いて見せてくださる方も多く、ご自身の管理をしっかりされているからでしょうか。一方、我慢強かったり、健診を何年も受けなかったりと、こちらから少し声をかけさせていただく方もいらっしゃいました。診療所や役場の保健師さんなどをこれからもぜひ頼っていただき、ずっと清川村で元気に過ごしていただければと思っています。

1年は本当に短くて、皆さんと少しずつ打ち解けてきたところで去るのはとても名残惜しいです。ここで感じたことを忘れずに、新天地でも頑張りたいと思います。

最後に、突然休診にしまったり、自分では見ることができず紹介せざるを得なかったりと力不足を感じることも多々ありましたが、それにもかかわらず診療所に来てくださった皆さんに感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

